

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 7月13日

【評価実施概要】

事業所番号	2170600361		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム 夢家族柳津		
所在地 (電話番号)	岐阜市柳津町丸野5-47 (電話) 058-388-4046		

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1		
訪問調査日	平成19年5月26日		

【情報提供票より】(19年5月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	5人, 非常勤 5人, 常勤換算 3人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月6日現在)

利用者人数	8 名	男性	名	女性	8 名
要介護1		名	要介護2	2 名	
要介護3	3 名		要介護4	1 名	
要介護5	2 名		要支援2	名	
年齢	平均 70 歳	最低	50 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安江病院	山田病院	大口歯科
---------	------	------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造民家を改築した誰もが訪問しやすい雰囲気のあるホームである。川や堤防、田んぼなどの自然も多く、また近くには大型ショッピングセンターもあり、散歩や買い物にもよく出かけている。主治医の協力とご利用者、ご家族の希望、要望で終末ケアを実施した。最後まで看取ることができたことにより職員の経験と自信にもつながったということである。また、職員と協働の関係を大切に、人生の先輩として多くのことを教えてもらいつつ、ご利用者一人ひとりの力量に合わせ、できることはなるべく自分で行なっていた。さらに、地域の人達の協力と個々の利用者をよく把握した見守りで、日中玄関の戸は開放されているなど前向きなケア実践に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を踏まえ、改善計画シートを作成し、職員全員に伝え、改善に取り組んでいる。トイレには木製のすのこを設置し段差を解消した。感染症についての会議を開き、マニュアルを作成した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者はサービス評価の意義と目的を伝え、全職員の意見を聞いて自己評価を実施した。評価を活かした具体的な改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では外部評価の結果を報告し、鍵をかけない、制止しない、させない、職員の教育等について話し合いがなされた。それぞれの立場の意見はサービスの向上に活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月生活便りを発行し、暮らしぶりや健康状態を報告している。面会時や行事などの来訪時、個々に意見を聞いて出された意見や要望等はミーティングで話し合い、外部者へも表す機会を作り、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>敬老会、町内会の祭り、お花見、花火大会に参加し、地域との交流に努めている。婦人会等のボランティア活動の申し込みもあり、地元の付き合いを大切にしている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直している。住み慣れた地域での安心した暮らしを支えるため「安心感」を事業所の理念とし、独自のものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、廊下に掲示し、管理者と職員は理念を共有し、ミーティング等で話し合い、確認し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、町内会の祭り、お花見、花火大会に参加し、地域との交流に努めている。婦人会等のボランティアの申し込みもあり、地元の付き合いを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を踏まえて改善計画に沿って具体的改善に取り組んでいる。今回も管理者はサービス評価の意義と目的を伝え、全職員の意見を聞いて自己評価を実施した		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価結果を報告し、鍵をかける、制しない、職員の教育等について話し合いがなされた。それぞれの立場の意見はサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は運営推進会議以外にも市町村担当者と行き来する機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員の異動についての報告はしていないが、月1回生活便りを出し、暮らしぶりや健康状態を報告している。金銭管理については本部の方から報告している。	○	職員の異動はご利用者、ご家族にとってダメージあるもので、安心できる関係での暮らしのためには方法を考えて異動を伝えることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、面会時や行事等の出席時、個々に意見を聞いている。出された意見、要望等はミーティング等で話し合い、サービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は地元の人がほとんどで、異動はなく固定化している。顔馴染みの職員によるケアを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立てている。報告会等順番に参加し、働きながらのトレーニングも進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所と学習会、勉強会等の交流を持っている。事業所外の意見や経験をケアに活かしサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して納得の上でサービスを受けられるよう事前面談で話し合っている。ご家族やそれまでに関わりのあった関係者に来訪していただき、ホームの雰囲気徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。普段から利用者に教えてもらう場面も多く、暮らしの中で分かち合い、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向を把握している。思いや意向が困難な場合は本人の今までやこれまでのことをよく知っている人達が「本人はどうか」という視点に立ち話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく過ごせるよう、ご本人、ご家族の要望を聞き、職員全員で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。知人や友人、関わりのあった人達の意見やアイデアも反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的見直しがされている。ミーティングに話し合い状態変化が見られる場合は主治医に相談し、ご家族に報告、現状に合わせた介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族、利用者の要望に応じ、精神的安定を図るための外出支援を行っている。時には散歩の帰りに喫茶店に寄るなどの柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医による往診は2週間に1回ある。入所前からのかかりつけ医の受診を希望される方には社長と職員が通院介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に終末期の入所者を受け入れ、最後に病院へ行き亡くなったケースがある。現在2名程終末期をここで過ごしたいと希望される方がいる。できる限り希望に沿うよう前向きに検討している。	○	終末期の介護に前向きに取り組んでおられるが、ご利用者、ご家族、かかりつけ医と職員が十分な話し合いのもとで進められることを希望したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	今回訪問時、食後、大きな声でトイレ誘導する場面が見受けられた。	○	トイレの誘導時等、声かけに注意をしながら他の利用者に分からない工夫をされることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを把握し、起床、散歩、食事など利用者に合わせた生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理は旬の食材を使い、嗜好を活かし、利用者が食べやすいようやわらかく工夫されている。また手伝おうとする意欲を出すようにし、共に下ごしらえ、配膳、食事前の声かけなど役割ができていて楽しそうに食事されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	6月より週3回の入浴日を予定している。入浴を拒否される方には無理強いせず「次、入りましょうね」と声をかけている。入浴時間は決めず、利用者はゆったり楽しんで入っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご家族の了解を得て外出、買い物の帰りに月1回程喫茶店に寄る。利用者は楽しみにしている。また一人ひとりの趣味や得意なことや楽しみ事、例えば日記をつける、絵を書く、歌を歌うなどしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分などを聞き、できる限り毎日散歩を行っている。訪問日はボランティアの方の協力もあり、車椅子介助の方が2名あり、全員が散歩していた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状況を把握。外出しそうな様子が見られるときはとめるのではなく、さりげない声かけをして話をすると落ち着き外へ出て行こうとしなくなる。日中は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による防災訓練も計画されている。非常用食料や備品は準備されており、地域の協力依頼もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を把握し、一人ひとりの状況によりいつでも水分補給できるよう準備がされている。	○	個別の食事摂取量の記録はされているが、水分摂取量の記録をされることを望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いこいの場所はテレビと長いすが置かれ、共用の場となっている。外から自然の風が入る。食堂からは玄関先も視野に入り、五感や季節感が感じられる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりの好みの物が置かれ、その人を感じられる居室になっていた。(お花を部屋に飾っている人もあった)		